牧師室より

感　謝

「百箱以上はありますね…」

トラックの扉をあけながら引越し屋さんが言いました。私の本を入れた段ボール箱がそれくらいの数になるというのです。まったく読書家ではありません。でも、もしかしたらどこかで説教の役に立つかもと、目につくたびに買ったり戴いたりしていた本が約二〇年の間に少しずつたまり、もはや自分で運ぶことはおろか、たぶん読むことも一生かけても無理なほどに増えてしまいました。それを雨の中、若い引越し屋さんが一生懸命、牧師館まで運んでくれる。感謝でした。

四月一日、あいにくの雨。しかし午後、醍醐に着いたときは小降りになっていました。牧師館の玄関の扉をあけて中に入ると、お部屋はどこもきれいにお掃除されている。気持ちよく迎えてくださろうとするお心遣いに感謝でした。荷物を入れる前、二階の畳の部屋で思いっきり大の字になってみました。早朝からの疲れで少しウトウトしそうになりました。

坂道を行ったり来たり、へとへとになって作業をしている若い方々をねぎらおうとジュースを買いに出ました。近くで買えるところ、一軒だけ見つけたのはお酒屋さん。

「こんど教会と保育園に着任した〇〇です」と自己紹介すると、急ににっこりとしたお顔になり、親しくお話してくださいました。ポカリスエットを買って帰る道すがら四人ぐらいの方と出会いましたが、名乗るとどなたもすぐに笑顔になられます。長年愛されてきた教会と保育園なのだなぁと実感でき、感謝でした。

たくさんの感謝から醍醐での生活を始められたこと、それもまた、やはり感謝でした。

（二〇一六年四月一〇日、津田記す）